

～愛称が決まりました～

20件のご応募をいただきありがとうございました。さんか・クラブで選考し“とらいあんぐる”に決定しました。“人々が手と手をつなぎ、共鳴し、お互いに支えあう”という意味が込められています。



男女共同参画ってなあに？

女性も男性もお互いを尊敬しあい、ひとりの人間として自分らしく生きるために、性別による固定的な役割分担にとらわれることなく社会に積極的に参画していくことです。

《特集》

日本女性会議2006しものせき

男女共同参画審議会委員 天野 滋

第8分科会『地域福祉づくり～市民と行政のパートナーシップのまちづくり～』に参加。コーディネーターの相川康子氏が「福祉でまちづくり」と言われたのが新鮮に感じられ、今後福祉を基盤にした町づくりや地域づくりも可能な感触を持ちました。また、惣万佳代子さん（NPO 法人この指と一まれ）の話には衝撃を受け感激させられました。「地域社会で誰をも排除しない、誰にも役割をあたえる」それが福祉の原点との事。「誰でも、必要な時に、必要なだけ」を前提に障害者も老人も子どもも生活できるデイケアハウスでは、社会と同じく層別せず、利用者も自分に出来ることをする事により、役割と参画意識を持ち生き生きとしているそうです。これが人生でしょう！ 合理化と効率化も必要で福祉行政には、壁も多々あったようですが、真の目的のための粘り強い働きが行政を味方にしたようです。

終わりに、新潟県中越大地震に於いても地域との関わりの多い女性のほうが心的障害も少なく、立ち直りも早いようです。男性も地域社会との接触を深め、評論家ではなく行政と協働の人を増やし、地域づくりの一員になりたいと思いました。



男女共同参画審議会委員 四谷 美津子

初日の白石真澄さんの講演は、「女性の労働力率が高い国は出生率も高い、女性が働きやすい社会環境を作ることが出生率を上げることに繋がる。意識改革が必要」と迫力ある語り口で少子化問題を示唆されました。

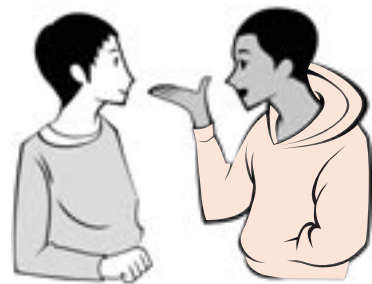
2日目の分科会は、メディア関係の女性の地位はいかなるものか、また報道のあり方などを学びたいと思い、『メディアと女性』に参加しました。テレビ局などでは最近でこそ女性のディレクターなどが活躍し始めてきましたが、まだまだ男性中心の社会であることを痛感しました。コーディネーターの磯野恭子さん（現岩国市教育長、元山口放送常務）が制作したドキュメンタリー番組の紹介は感動しました。メディアは、ジャーナリズムと信頼できる確かな情報を発信するものでなくてはならないと思います。そしてもっと女性の視点からの報道、ドラマが制作されるよう期待しています。



おやじの会 “サバイバル講習”



# 日本女性会議 2006しものせき 10月6日・7日



「人種」、「ジェンダー」、「年齢」を超え、支えあい、協力しあう国際的な社会を築くためには政治、宗教を超えた歴史事実を確認しあい、相手の心信じ認めあうこと。言葉はジェスチャーで、交流や協力は自然にありがとうの言葉で、地域の協力の中から人まねをしてみるのだそうです。本音と建前があることは、個人として受け入れて交流ができるでしょうか。このことが日本人としてのキーワードかしら？ 国際交流と国際協力パートナーシップを目指して エミリー

## 日本女性会議とは

人が人として平等に、個人の生き方が尊重される男女共同参画社会の実現に向けて、全国からの参加者が連携し絆を深め、活力ある地域社会の構築を目指すため、1984年から毎年開かれています。24回目は、2007年10月19～20日に広島市で開催されます。

10月29日(日)災害に強いまちづくりをテーマにトークが開催されました。 助) 新潟県女性財団理事長大島照美子さんの基調トーク「新潟県中越大地震から私の3年」から気になる、ためになるコトを掲載します。

男女のニーズの違いを考慮した防災対策が求められている。 政策決定の場へ女性を。

防災と災害復興へ女性の参画が必要である。(行政・町内会など)

災害時あらゆる場面(家庭・職場・地域など)で、男仕事女仕事と決め付けず、男女共同参画の視点が必要である。

避難生活においても非常時とはいえ「性別・年齢などにかかわらず」人間の尊厳(最低限のプライバシーの確保)は守られなければいけない。

元気な男性は「わが夫、わがまま気まま、すわったまま」なんて言わないでいろんな分野を男女一緒に支えあっていきましょう。「自分だけが苦しい」と思いながら復興していくのでは、地域社会が不健全。

防災について考えよう！

## 防災サバイバル体験

師勝小学校おやじの会は、防災ボランティアの指導を得て体験訓練を行いました。親子120人の参加者は、側溝・水路・民家の塀や自動販売機が安全に設置されているかを歩いて確かめた防災マップ作りや、簡易担架作りやサバイバル飯と銘打った空き缶とアルミホイルで作る炊き出しを体験しました。災害はいつ起きるか分かりません。大災害で親が死んでしまえば子どもだけが残される事態も想定されます。今回の訓練で、子どもたちは、ボランティアさんから真剣に「生きる力」を学び、親子の絆が強くなったと思います。 防災は、繰り返し学ぶ必要があるかも！ 目玉おやじ

## 性差医療



男性：男にも更年期障害ってあるんだよな？

女性：いままでの医療では、更年期障害かなと思って受診すると婦人科→内科→神経内科→精神科...と患者が回されたのよ。でも原因は「私の話をしっかり聴いて受け止めてくれる」職場、家庭、環境が欲しかったの。

男性：よくは「疲れた」と身体が訴えて落ち込むことがあるのに、「男だから」背負っているものがあるのよ。

女性：「弱音」と思われちゃうんだ。

男性：痛風は男性、膠原病は女性に多いとか...心筋梗塞は男性は若いころから命を落としたり、女性は閉経前にかかることは稀で75歳を超えると急速に増加するとか？

女性：その原因のひとつに社会的な男女の立場とかお互いの関係や、それぞれのライフステージや、入退院・介護・冠婚葬祭などの家庭環境が影響していることが多いわ。

男性：じゃあ、総合的に僕を診てもらえば元気で長生きできるわけだね。

女性：性差で男女が役割分担しているより、相手のことを思いやって結果的には「一人一人が」生きていくことについて考えていけたらいいわね。

男性：これからの医療は「女性外来」「男性外来」ができて見直されるといいな...

女性：それが見直され始めるのよ。

第2次男女共同参画基本計画では医療の推進、医療関係者及び国民に男女の性差医療についての知識の普及を図るとされています。



「しつけ」と「虐待」の線引きは「ユリ」のあんなのか？  
子どもは母ちゃんに叱られ殴られて泣いている。母ちゃん  
は「しつけ」のためと言う。どこにでもある話。2人の  
言い分を聞く世話好きな隠居は「しつけとは人を思い  
やることを教えることだよ」と。子どもであつても一人の  
人間として尊重されなければ。身も心も傷つけばこれは  
もう「虐待」といふことになりはしないか。  
子育て中のお父さん！お母さん！手を挙げる前に、怒  
鳴る前に、ちよつと待ちやせー！

(Y)

北名古屋市男女共同参画推進補助事業

ちよつと待ちやせ！

主催 しかつ子育てネットワーカーの会

小学生の娘二人を連れて会場へ。「お父さんは外で呼び  
込みするから、あなた達は入り口でおはようございます  
どうぞ〜ってお客様に笑顔で挨拶してね」。子ども達はお  
芝居を見るのも初めてなのにお手伝いスタッフも体験でき  
るなんて嬉しいと言っていましたよ。お芝居はとてデリ  
ケートなテーマ。近所のご意見番が隣のマンションに住む  
親子の問題に余計なお世話だが何とかしてやろうと親子  
と共に考え悩むというお話。何とも言えないユーモラス  
な風呂屋のご隠居と、少年・お母さんの早替わりで二役  
を演じる役者さんとの会話に客席は終始笑い、そして感  
動の拍手が沸きあがるなどの良い作品でした。

終了後、会場を後にする方々からは皆満足した笑みが  
こぼれていました。子育てで悩んでいる方には優しく何か  
を感じ取れる作品ではないでしょうか。…

(H)

## モモタロー・ノー・リターン

北名古屋市女性の会男女共同参画委員会は、県  
人権ファンクション委員会の委託を受け、「おばあ  
さんは山へ芝刈りに、おじいさんは川で洗濯に…」  
という寸劇を演じ、男女共同参画をわかりやすく啓  
発するDVDを作成しました。

2月18日(日)午後1時30分から総合体育館  
市民ホールで「男女共同参画のつどい」を開催し、  
上映します。是非お出かけください。

## アンケートご協力ありがとうございました

昨年12月に実施した「北名古屋市男女の人権尊重・社会  
参画アンケート」へご協力いただきましてありがとうございました。  
結果は3月末に公表し、「(仮称)北名古屋市男女  
共同参画プラン」に活用いたします。



平成19(2007)年2月発行

編集 さんか・クラブ  
イラスト N/N  
発行 北名古屋市教育委員会  
生涯学習グループ 東庁舎2階  
〒481-8501 (住所記載不要)  
電話 0568-23-6111  
FAX 0568-23-3150  
Eメール shogai@city.kitanagoya.lg.jp  
ホームページ  
<http://www.city.kitanagoya.lg.jp/>

## コミュニティビジネス勉強会

講師に細内信孝氏をお迎えして、「住民の力で地  
域を元気にする」コミュニティビジネス(営利目的  
とボランティアの中間領域的な活動のこと)を学  
びました。重要なことは、顔の見える関係(中  
学校区の広さ)で等身大の活動を行うこと、職住近  
接の生き方で多足のワラジを履くこと、安心でき  
る生活圏をどう作るかに視点をおくことだそうです。

自主勉強会開催 みなさんご参加ください!

とき 2月28日(水)午後7時~  
ところ 総合体育館 大会議室

## 編集後記

北名古屋市になってから第2号の情報誌を発行することが  
できたことに感謝しています。愛称も決まり、これからもま  
ますこの情報誌が皆さんの身近なものになるよう願って  
います。

毎年11月に、「あいち女性面白マップ」が発表され、愛知  
県下市町村の「女性議員率」「審議会等の女性の登用率」な  
どを総合的に判断しランキングがつけられますが、このほど  
「北名古屋市」が1位になりました。1位というのは名誉です。  
どれだけ男女共同参画に一生懸命なのかということです。自  
画自賛ですが、「さんか・クラブ」のメンバーがそれぞれの  
場所で熱心に活動してくれている証明だと思えます。

難しいことではありません。ぜひ私たちと一緒に活動し  
ませんか？本音が飛び交う楽しい仲間たちばかりです。

さんか・クラブ会長 徳永敏枝